



評価のポイント

CL-2.看護実践能力：ケアする力

【28-2】薬剤の副作用と生体反応の早期発見

1. 抗てんかん薬の副作用にはどのようなものがありますか？

- アレルギー性の副作用（開始から2カ月以内の初期に注意）
 - ・重症型の皮膚病変 ⇒ Steavens-Johnson症候群、中毒性表皮壊死症
 - ・赤血球・白血球・血小板の減少
 - ・肝機能障害
 - ・中枢性副作用 ⇒ 眠気、めまい、複視、ふらつき、眼振、行動異常など
- 長期服用による副作用
 - ・バルプロ酸 ⇒ 食欲増進や体重増加
 - ・フェニトイン ⇒ 歯肉増殖
 - ・カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール ⇒ 骨粗鬆症

2. ワルファリンを開始した患者にはどのような説明が必要ですか？

1. ワルファリンの必要性和作用 ⇒ 病態（弁置換、心房細動など）と抗凝固作用を説明する。
2. きちんと内服すること ⇒ 抗凝固効果の維持、飲み忘れへの対応を説明する。
3. 検査の必要性 ⇒ 血液のかたまり具合をみるために検査（PT-INR測定）をする。
4. 他院受診時の注意 ⇒ お薬手帳を持参して、ワルファリンの服用を伝える。
5. 特に、出血を伴う場合（内視鏡、歯科、手術など）
6. 食品との相互作用 ⇒ ビタミンK含有食品（納豆、クロレラ、青汁など）は避ける。
7. 薬剤との相互作用 ⇒ 薬剤との相互作用が多いので、必ず薬剤師に確認する。